

R6.7.9 全校朝会（一生懸命に生きる）

今日は、星野 富弘さん という方のお話をします。以前運動会の練習の時、みなさんに「一生けん命頑張る姿はカッコいい。」とお話したことを覚えていますか。

実は星野さんも、あることを一生けん命に頑張った人なのです。

それではまず、星野さんがどんな人なのかについて紹介しますね。

星野さんは群馬県出身で、1970年に中学校の体育の先生になりました。しかし、その2か月後に体操部の指導中、星野さんの人生を大きく変える事件が起こります。

それは、指導中に宙返りのお手本を見せようとしたところ、失敗してケガをしてしまったのです。そのケガは軽いものではなく大変大きなケガでした。首の神けいを痛めた星野さんは、その日から肩から下がマヒして、全く動かなくなったのです。

自分で起きることも、寝返りをうつこともできない。もちろん食事もトイレも一人ではできない。星野さんは長い長い入院生活の中、「生まれてこなければよかった。」「生きる希望なんてない。死にたい。」「このまま心臓が止まってくれないかな。」と何度も思ったそうです。

それでも星野さんは、自分の為に、そして支えてくれる周りの人の為に生きることを決めました。体が動かないことで、つらいことや悔しいこともたくさんたくさんあったことでしょう。それでも、「一生けん命に生きる」ことを選んだのです。

星野さんが、一生けん命に生きるために頑張ったことは、文字や絵をかくことでした。みなさんは、手を使って指を使って字や絵を書くでしょう。

星野さんは、手足が全く動かないので、筆を口にくわえて書く練習をしました。

上手にかくことができるようになるまでに、とてつもない努力をされたのだと思います。一生けん命頑張ったのだと思います。

みなさんは、何か一生けん命に頑張っていますか。自分のいのち

も周りのいのちも大切に生きていますか。

6月1日は「いのちを見つめる集会」を行いました。6年生から1年生までそれぞれが学級で話し合っ、いのちを大切にす、輝かせる決意の言葉を決めました。6月は「いのちかがやく強調月間」でした。自分たちで決めて発表した決意の言葉にしっかりと取り組む一か月間でした。

どの学級も、決意の言葉について取り組むことはできましたか。

今日は、星野さんの話を通して、「一生懸命生きること・頑張ること」「自分や周りのいのちを大切にすること」をみなさんに伝えました。

いのちの学習は、6月だけの学習ではありません。1年間、そして次の学年になっても続けていかなければならないのです。

もうすぐ夏休みになります。みなさんは夏休みを楽しみにしていることでしょうか。そんな楽しい夏休みにも、いのちの危険はいろいろなところにあります。

おうちの人と話し合っ、そして自分でも考えて、いのちを守り、楽しい夏休みにしてほしいと思います。

夏休みまで、あと2週間くらいとなりました。学校でももちろんいのちを大切にし、1学期のまとめに頑張りましょう。